

新たな息吹 SINCE2007



20th Anniversary

# さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>

5月号



「食は楽しい」「食は大切」

校長

瑞々しい若緑色の木々も日に日にその色を増し、青葉茂り薫風渡る頃となりました。新年度が始まって一か月が過ぎ、子供たちも新しい出会いや環境での「日常」にも慣れ始め、力強さを増していく陽射しの中、キラキラした笑顔と汗に輝く姿もたくさん見られるようになりました。

今年度さわの里小学校では、「第1回 学校説明会」資料でもお示しさせていただいた通り、令和7-9年度版中期学校経営方針の一つとして、「食育」の推進を進めていきたいと考えています。「食育」については、第5期横浜市教育振興基本計画の柱1及び施策3に位置づけられている「健やかな体の育成」の実現に向け、学校給食を教材の軸とし、さわの里小学校の実態・状況に応じた持続可能な食育に取り組んでいきたいと考えています。その取組の一つとして、5・6年生の委員会活動、給食委員会を今年度より「食育委員会」と名称変更をしました。子供たちとも力を合わせて、「さわの里小の食育」を進めていきたいと思えます。

私が社会人になった頃、毎週楽しみに見ていた「食」に関するアニメがありました。「美味しんぼ(おいしんぼ)」というアニメで、1988年から1992年にかけて放送されていたものです。内容は、主人公で新聞記者の山岡士郎と、美食家・海原雄山が、「究極のメニュー」VS「至高のメニュー」という料理対決を展開していくもので、当時「食」ブームを巻き起こしたアニメ漫画と言われています。その中で、今でも印象に強く残っている回があります。それは、120・121話の「究極の披露宴」という回でした。結婚披露宴での宴席料理をめぐる「究極」VS「至高」のメニュー対決。超豪華な食材の宴席料理を期待している参列者の前に海原雄山が出した料理は、一般的な家庭料理の惣菜でした。拍子抜けした人達に対し、海原雄山は次のように述べました。

「私は、新郎新婦が家庭でどんなものを食べて育ったか調べてみました。上の重は新郎。下の重は新婦。一略— 一つ一つの料理の味を深く味わっていただきたい。その料理の一つ一つが、新郎新婦が育ってきた家庭と生い立ちと人格を物語っている。一略— 見た目は平凡な家庭料理の惣菜。その惣菜の中にこそ、真の家庭の姿がある。」

※引用:小学館「美味しんぼ」第27巻より(著作権法32条にもとづき引用)

時はバブル景気の時代。豪華さと高級さだけを求め、本来の「食」の役割が忘れられかけていく時代の中で、この言葉は当時異質でありながら、実は本質の光を放っていたからこそ、30年以上たった今でも、きっと心に残っているのだと思います。

「学校給食を教材の軸とし・・・」、私は、学校給食は、「学校における家庭料理」だと思っています。調理員さん、栄養士さんを含む私たちの仕事の主目的の一つは、「給食という名の、さわの里小の子供たちへの安心、安全な家庭料理」の提供であると心得ています。そして、その「家庭料理」という表現の中には、「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する能力」「感謝の心」「社会性」「食文化」といった「食育の視点」が溶け込んでいると思っています。学校給食における「食育」と、各ご家庭での「至高」の家庭料理とが有機的に結びつくことによって、子供たちは生涯にわたって「食」に主体的に向き合い、食に関する自己管理能力が育まれるのではないかと思います。「食は楽しい、食は大切」という基本理念を大切に、各ご家庭のご理解・ご協力のもと進めていければと考えています。よろしく願いいたします。



☆横浜市食育イメージキャラクター:バランスイ〜ナちゃん